




令和元年度

政務活動費支出伝票（旅費）

会派名 主体的市民の会

伝票番号 1

旅行承認年月日	代表者	経理責任者	支払年月日	区 分
令和元年6月27日			令和元年6月28日	調査研究費 ・研修費
氏 名	金 額	受領印	受領年月日	
1 荒木 明美	109,490円		令和元年6月28日	
2			年 月 日	
3			年 月 日	
4			年 月 日	
5			年 月 日	
支払金額合計		109,490円		
旅行の目的 沼津市ヘアメツーリズムの調査、亀岡市ヘセーフコミュニティの調査、PPP 大学校でPPP/PFIの研修のため。				
用務地 静岡県沼津市、京都府亀岡市、東京都千代田区				
旅行の行程		旅費の内訳（1人当たり）		
8/5	函館→羽田→品川	路線バス、私鉄	1,400円	
8/6	品川→沼津→京都	J R	30,790円	
8/7	京都→亀岡→京都→東京→大手町	航空賃	53,380円	
8/8	品川→羽田→函館	日 当	12,000円	
/		宿泊費	8,920円	
/		参加費	3,000円	
/		その他		
/		合 計	109,490円	

領収書等は、別紙に貼付のこと（重ならないよう留意）

各種代金お支払い 取扱明細書兼領収書 (お客様控)

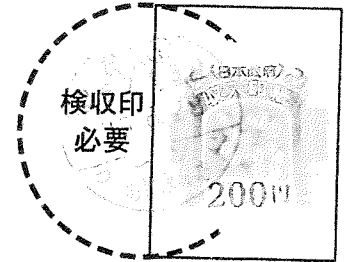
発券日
26743-0

2019年06月28日
函館東雲

時間 13時43分

お支払い金額
53,380円

ANA(全日本空輸株式会社)



お客様氏名 主体的市民の会 荒木明美
下記予約を承っております。 全1名 全2旅程分の金額です。
出発日 便名 区間 出発時刻 出発日 便名 区間 出発時刻
08/05 ANA558 函館 -羽田 1945 08/08 ANA553 羽田 -函館 1015

お支払い後の返金は当店ではお受けできません。お支払い内容に関しては下記へお問合せください。

お問い合わせ先： 会員専用デスク
電話： 0570-029-767 受付時間： 06:30-22:00
東京03-6741-8800 大阪06-7637-8800
札幌011-726-8800 福岡092-752-8800 沖縄098-861-8800

収納代行会社
ウェルネット株式会社

申込No. : 2674371794938293
この明細書は大切に保管してください。

領 収 証

2019年 8月 5日

主体的市民の会 荒木明美 様

金29,970円

ただし、乗車券類(品川~沼津、沼津~京都、京都~東京)代として、上記金額を受領しました。

印紙税申告済
付につき添付
税務署承認済

本領収証は時間がたつと文字が薄くなる場合がありますので、長期間保存する場合はコピーをお取り下さい。

東日本旅客鉄道株式会社
品川802 No.000069



領 収 書

主体的市民の会 荒木明美 様

領収金額 ¥8,920

(内消費税 ¥518 / 内宿泊税 ¥200)
現金にて領収いたしました。

ヴィアイン京都駅八条口
京都府京都市南区室町通針小路東入ル
東九条上殿田町44-1
TEL:075-662-5489

印紙税申告納
付につき尼崎
税務署承認済

(株)JR西日本ヴィアイン
作成地:
兵庫県尼崎市
潮江1丁目2番12号

取引番号:017002P080604637 2019/08/06 20:06

お部屋番号: 1028
お名前 : アキ アキ様

納付書兼領収証書



口座番号 01080-7-960054 加入者名 亀岡市会計管理者

住 所 北海道函館市東雲町4番13号

氏 名 主体的市民の会 荒木 明美

所 属 自治防炎課

所 属 コード 030600 所属名 自治防炎課

年度 31 会計 10 伝票番号 31-005046

款 21 項 06 目 05 節 01 細節 22 細々節

会計名 一般会計

科目名等 視察等情報提供料

金額 3,000 円

納入内容 セーフコミュニティ推進事業視察料金(函館市
議会 無所属議員)

納 期 限 令和 元年 8 月 21 日

上記のとおり納付してください。

令和 年 月 日

領収日付印
1. 8. 7

京都・亀岡

亀岡市長

上記のとおり領収しました。

(納入者保管)

この領収証書は5年間大切に保存してください。

◇納付取扱金融機関等


- ・ 亀岡市役所
- ・ 京都銀行・京都信用金庫・京都農業協同組合
- ・ 京都北都信用金庫・京都中央信用金庫・近畿労働金庫
- ・ 三井住友銀行・三菱UFJ銀行・りそな銀行
- ・ みずほ銀行・関西みらい銀行・京滋信用組合
- ・ ゆうちょ銀行・郵便局(近畿2府4県に限る)

搭乗証明書

WEB a6bfb6feeb-133246-0-1
表示日 2020年02月02日(月)

搭乗者 アラキ アケミ様
搭乗日 2019年08月05日(月)
航空会社 ANA
便名 558
区間 函館 - 東京(羽田)

AIRPORT CODE:HRD-HND
FARE TYPE CODE:SV28E

ANA A STAR ALLIANCE MEMBER 

ANA 全日本空輸株式会社
ANA / ALL NIPPON AIRWAYS CO., LTD

搭乗証明書

WEB a6bf6bfeeb-133225-0-2

表示日 2020年02月03日(月)

搭乗者 アラキ アケミ様



搭乗日 2019年08月08日(木)

航空会社 ANA

便名 553

区間 東京(羽田) - 函館

AIRPORT CODE:HND-HKD
FARE TYPE CODE:SV28F

 A STAR ALLIANCE MEMBER 

ANA/全日本空輸株式会社
ANA/ALL NIPPON AIRWAYS CO., LTD

理由書

荒木明美

① 8月5日に用務地以外で宿泊した理由

8月5日は、函館→羽田の移動において最終便（函館19：45発）を利用した。この場合、羽田空港から静岡県沼津市へ移動すると日付を超えて深夜着になるため、東京都内に宿泊し、翌朝に沼津へ移動した。そのため、用務地である沼津以外で宿泊した。

② 8月6日に用務地以外で宿泊した理由

8月6日は、沼津市内での視察を終えて、翌日の京都府亀岡市での視察に向けて移動した。仮に6日は沼津市内で宿泊した場合、翌朝、視察先である亀岡市役所に約束の時間までに到着する術がない。したがって、用務地である沼津以外で宿泊した。

③ 移動で新幹線「のぞみ」を利用した理由

今回の視察・研修では、東京を出て、静岡県沼津市の視察、京都府亀岡市の視察、そのあと、東京に戻り研修を受けるという移動の多い旅程であり、視察や研修に間に合うためには、「のぞみ」を利用しないとならなかった。そのため、新幹線では「のぞみ」を利用した。

出張報告書

令和元年8月15日

主体的市民の会 荒木明美 様

出張者氏名 荒木明美



下記のとおり出張したので報告します。

記

1 出張期間	令和元年 8月 5日 ~ 8日 (4日間)
2 用務地	① 8月 6日 静岡県沼津 市・町
	② 8月 7日 京都府亀岡市、東京都千代田区 市・町
	③ 月 日 市・町
3 出張概要	沼津市視察 日時 令和元年8月6日(火) 13:00~15:30 場所 沼津市役所、アニメツーリズム聖地(三の浦総合案内所等) 亀岡市視察 日時 令和元年8月7日(水) 10:00~11:30 場所 亀岡市役所 PPP大学校 日時 令和元年8月7日(水) 17:30~19:30 場所 日本政策投資銀行
4 所見	別紙。
備考	

(参考様式 別紙1)

研修会、意見交換会、報告会等の会議（開催・参加）の概要

区 分	内 容	
会議等の名称	PPP/PFI大学校（第十期） 【進化したPPP/PFIの活用によるまちづくり】 オガール・プロジェクト ～事業開始後の継続的な取組を中心に～	
会議等の目的	岩手県紫波町の公民連携のまちづくり、PPP/PFI事業の実績等について 講義を受けるため。	
日 時	令和元年 8 月 7 日（土）17：30～19：30	
場 所	日本政策投資銀行	
出席者	出席議員氏名	荒木明美
	講師等の氏名	鎌田千市（岩手県紫波町役場）
	その他参加者	約70人（大手町本店での受講は40人程度。残り は全国各地からオンライン受講）
支出内訳		金 額
合 計		円



News Release

平成 31 年 4 月 1 日
株式会社日本政策投資銀行

「PPP/PFI 大学校（第十期）」開催のご案内

株式会社日本政策投資銀行（以下「DBJ」という。）は、このたび、PPP/PFI(注)活用拡大へ向けた取り組みとして、「PPP/PFI 大学校（第十期）」を開催します。

「PPP/PFI 大学校」は、DBJ の TV 会議システムを利用して全国の地方公共団体、民間事業者および地域金融機関等の参画を得ながら、PPP/PFI に関する最新情報・先進事例の発信や意見交換等を行う取り組みとして、平成 26 年 10 月より九期計 49 回にわたり開催してきました。

平成 31 年は、PFI 法施行（平成 11 年）から 20 周年という節目であり、DBJ グループではこれを契機とし、これまでの PPP/PFI の総括を行うとともに、今後の地域課題解決や地域活性化に向けて、手法としての幅広い官民連携をいかに活用・実践すべきか等の観点から、多面的なコンテンツの整理・検討を実施しているところです。

このような中、本年度の「PPP/PFI 大学校」では、DBJ グループの上記取組の概要及びコンテンツ内容の紹介、関連する外部有識者からの講演等に加え、多数参加いただける当大学校の特徴を生かして幅広い参加者による活発な対話・意見交換や取りまとめを行うなど、真に有意な PPP/PFI の取組や地域創生・地域活性化への動きを積極的に推進してまいります。今次、第十期では、PPP/PFI 20 年の歩みの振り返りのほか、まちづくりの先導的事例等を題材に開催する予定です。

DBJ は、企業理念「金融力で未来をデザインします～金融フロンティアの弛まぬ開拓を通じて、お客様及び社会の課題を解決し、日本と世界の持続的発展を実現します～」に基づき、社会的課題をビジネスで解決するための、協創の「場」を提供し、地域での創造的な挑戦を応援してまいります。

記

【開催要領】

1. 開催時期 平成 31 年 4 月～平成 31 年 9 月（全 4 回を予定）
2. 対象 全国の地方公共団体を中心に、地域金融機関および民間企業職員の方もご参加頂けます。（なお、応募者多数の場合、ご希望に沿えない可能性がある点、予めご了承くださいますようお願い申し上げます。）
※各回の概要につきましては次項【カリキュラム（予定）】をご参照ください。
3. 会場 DBJ 本店（東京）および以下の支店・事務所
支店：北海道（札幌）・東北（仙台）・新潟・東海（名古屋）・北陸（金沢）
関西（大阪）・中国（広島）・四国（高松）・九州（福岡）・南九州（鹿児島）
事務所：富山・岡山・松江・松山・大分
※支店・事務所は DBJ における本支店間 TV 会議システムを利用したサテライト形式となります。なお、駐車場はございませんので、予めご了承ください。
（地図 URL <http://www.dbj.jp/co/info/branchnews/index.html>）
4. 募集方法 参加ご希望の方は、<http://www.dbj.jp/co/info/branchnews/index.html>にて、4 月 19 日（金）までにお申込みください。
5. 募集人数 本店：50 名程度、支店・事務所：各 5～10 名程度
6. 参加費 無料



News Release

【カリキュラム（予定）】

各回 120 分程度（講演および意見交換等）を想定

■ 第 1 回 4 月 25 日（木）17：30～19：30

【PPP/PFI 20 年の歩み】

PFI 法施行 20 周年を契機とした DBJ グループの取組企画について (DBJ)
政府の最新の施策・取組、PPP/PFI 20 年の振り返り等 (内閣府、国土交通省)
PPP/PFI の 20 年 その展開と変革 ((一財) 日本経済研究所)

■ 第 2 回 5 月 30 日（木）17：30～19：30

【実例から学ぶ PPP/PFI の効果と課題】

PPP/PFI の効果検証 ～初期 PFI 案件を中心に～ (株) 日本経済研究所
福岡市から見た PPP/PFI の 20 年 ～実績・経験に基づく多様な取組へ (福岡市)

■ 第 3 回 8 月 7 日（水）17：30～19：30

【進化した PPP/PFI の活用によるまちづくり】

オガール・プロジェクト ～事業開始後の継続的な取組を中心に～ (紫波町)

■ 第 4 回 9 月予定 ※日程が決まり次第、別途公表します。

【PPP/PFI を活用したまちづくりの再構築】

複級経校跡地活用等を題材とした今後の地域の面的再生の検討事例 (株) 価値総合研究所
スポンジ化（※）した地域の面的再生等へ向けた取組事例 (NPO 法人つるおかランド・バンク)

※「※」の内容については、所在地（※）を家庭や個人向けが空間が、小さな敷地単位で、時間的・空間的にランダムに、相当程度の密度で発着する現象

※ 上記のほか、PFI 法施行 20 周年を契機とした DBJ グループの取組やコンテンツの幅広い紹介も含め、有意義な企画となるよう検討を進めてまいります。

※ なお日程・テーマ・講師等につきましては、社会環境の変化や受講者のニーズ、外部講師の都合等により都度変更の可能性のある点ご了承ください。

(注) PPP(Public Private Partnership：パブリック・プライベート・パートナーシップ)とは、行政主体による公共サービスを、行政と多様な構成主体との連携により提供していく新たな考え方、民間委託、PFI、指定管理者制度、民営化、地域協働、産学公連携等を含めた公民連携手法の総称。
PFI(Private Finance Initiative：プライベート・ファイナンス・イニシアティブ)とは、公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力および技術的能力を活用して行う手法。

以上

(個人情報の取り扱いについて)

ご提供いただく個人情報は、PPP/PFI 大卒校のための範囲内で使用いたします。
またご提供いただく個人情報は法令の規定により提供を行う場合を除き、ご本人様の同意なしに第三者への開示・提供を行うことはありません。

【お問い合わせ先】

地域企画部 PPP/PFI 推進センター 電話番号 03-3244-1513
E-mail pppuniv@dbj.jp

沼津市視察

主体的市民の会 荒木明美

日時：令和元年8月6日(火) 13:00～15:30

会場：沼津市役所、ラブライブ！サンシャイン！！聖地巡礼地（三の浦総合案内所、三津海水浴場、安田屋旅館、淡島ホテル）

面談者：産業振興部観光戦略課課長、副主任、議会事務局

目的：沼津市は、沼津市の内浦地区の学校で結成されたスクールアイドルグループ「Aqours」の奮闘と成長を描く物語である人気アニメ「ラブライブ！サンシャイン！！」の舞台となった。それにより、聖地巡礼で全国はもとより世界各国から訪れるラブライバー（ファン）へのおもてなしを始め、街をあげて「ラブライブ！サンシャイン！！」を市の活性化に活用している。函館市においても、観光誘致のコンテンツの一つにアニメツーリズムを活用してもらいたく、沼津の成功事例、課題などについて直接ヒアリングすることを目的に視察した。

概要（担当課の説明「ラブライブ！サンシャイン！！を使ったまちづくりについて」）：

H26年度 制作会社から市に対して相談あり。フィルムコミッションの一環として支援。

H27年度 ラブライブの企画詳細が発表され、ファン来沼が予想されたため、自治会役員会に出向きアニメの説明、ロケ協力、ファンへの柔軟な対応を依頼。

H28年度 アニメ放映開始後、市内あちこちにファン来沼。ラッピングバス、アニメとコラボした入場券、パズルラリー、イベントでの活用などアニメとコラボした取組み増。

H29年度 アニメ1期放送終了後、聖地巡礼の動き本格化。制作会社と市内民間業者とのコラボによる商品造成進む。市内回遊性を高めるためまちあるきスタンプ開始。広報ぬまづでアニメの特集を掲載。作品を市民に知ってもらいオール沼津で盛り上げる機運高まる。

H30年度 行政によるコラボを一層活発化。オリジナルマンホール、市内施設入場券デザインにアニメ使用、主人公の声優がナレーターの観光PR動画制作。NHK紅白出場にかかるキャンペーンの実施。ふるさと納税ノベルティでのコラボ。

H31年度 静岡デスティネーションキャンペーン書き下ろしポスター作成。ノベルティグッズの作成。ライブ使用セットの展示。

所見：行政の取り組みによって、市民への浸透度、協力体制も高まり、うまくまちづくりに活かされていることが分かった。ドラマや映画と異なり、アニメのファンは放送が終了しても聖地巡礼を続ける傾向があるが、ラブライバーの人たちに飽きさせない取り組みがよく練られていると感じた。私が市内見学でまわったときにも酒屋でアジア人の女性、喫茶店では欧米人の複数グループ、各協力店舗等に置かれているノートには世界各国から来沼したライバーのメッセージがあふれていた。アニメツーリズムとしての成功ノウハウを惜しみなく提供してくれた担当課に感謝すると共に、函館でも活かしてもらえよう質問に活かしたい。

亀岡市視察

主体的市民の会 荒木明美

日時：令和元年8月7日(火) 10:00～11:30

会場：亀岡市役所

面談者：総務部自治防災課セーフコミュニティ係長、担当、議会議務局

目的：亀岡市は、平成20年に国内で初めてセーフコミュニティ ISS マークに認証された市であり、安全安心なまちづくりを市民のみなさんと一緒に進めていくことを宣言している。平成30年にはセーフコミュニティの再々認証がなされた。日本で初めてセーフコミュニティを取り入れた経緯から、現在まで10年以上継続している成果や課題について伺いたく、視察した。

概要（セーフコミュニティについてのヒアリング）：

セーフコミュニティとは、事故やけがは偶然に起こるのではなく、予防できるという理念のもと、行政と地域住民など多くの主体の協働により、全ての人たちが安心して安全に暮らすことができるまちづくりを進めるもの。怪我を減らそうという取り組みがスウェーデンで始まったことを機に、平成元年にWHOとカロリンが認証システムを作った。

地域の誰もがいつまでも安全に暮らせるまちをつくらうという取組になったのが「セーフコミュニティ」であり、高齢者の転倒防止としての「健康づくり体操」、「子ども110番の家」や「子ども・地域安全見守り隊活動」、地域を災害から守る「自主防災組織活動」などは、セーフコミュニティ活動につながる活動。なお、病気は対象外。

防犯対策委員会：まちレコ。ドライブレコーダーを増やす（新車登録時の半分はレコーダーをつける）。まちな見守りに参加し、事件が起きた時には警察に記録を提供する。

自殺対策：相談窓口を知ってもらうのが課題。散髪屋さん等日常で行くところに広報カードを置く。最近様子がおかしい人に渡してもらう。従業員対象にはゲートキーパー研修。

高齢者の安全：認知症が増える。市で登録制度。行方不明時には皆で探す、声をかけるため。アイロンで貼れるQRコード。靴の反射材。搜索願のときに探す目印。

中学生への外傷予防講習会：ケガをどう防げるか、京都パープルサンガのコーチが指導。

大学、企業と協働：大学生にデザインを考えてもらう。京都女子大学の協力。就職活動のPRになる。社会貢献したい企業と互いにメリットあり。

成果・効果測定：自殺率は54%減少。救急搬送の記録を分析。防犯は警察、内閣府にデータをもたらしている。高齢者の安全対策委員会では、国保料、介護認定介護保険料でメリットあるかを大学が分析。経済的効果は出ている。

所見：セーフコミュニティによって、根拠に基づくこと、効果に対する意識が体にしみこんでいると感じた。また、各種活動や結果の読み取りには、根拠に基づいたものでないとダメということを行行政が粘り強く言い続けることで関係者にも浸透している。「根拠に基づいてやってるので、データの上下に一喜一憂しない」という一言が印象的であった。図書館においても、セーフコミュニティを検討してもらえるよう伝えていきたい。

PPP/PFI 大学校(第十期) 参加報告・所見

主体的市民の会 荒木明美

日時：令和元年8月7日(水) 17:30~19:30

会場：株式会社日本政策投資銀行大手町本店

プログラム：進化したPPP/PFIの活用によるまちづくり「オガール・プロジェクト～事業開始後の継続的な取組を中心に～」

講師：紫波町 企画総務部企画課長 鎌田千市 氏

講義内容：

・紫波町のPPP事業の実績（管理型浄化槽整備PFI事業（H17）、紫波火葬場整備PFI事業（H18）、水道施設整備・維持管理事業（H19、24））

・公民連携によるまちづくり（H19～）

行政課題 ①紫波中央駅前の未利用町有地10.7ha ②役場本庁舎の老朽化、分散している庁舎 ③図書館新設の要望

解決の糸口 ①前町長の経営感覚とリーダーシップ ②PPPを担う岡崎氏の存在 ③財政問題 ④PFI事業の実績 ⑤東洋大学大学院との協定

紫波町PPP可能性調査（H19）東洋大学と紫波町が協定締結。東洋大院の地域再生プログラム第1号。30年計画の具現化、町全体の発展に繋がる開発、米国型PPPの都市整備。関係団体、市民参加の取り組み 紫波町PPP推進協議会による調査（H19）、民間の意向調査（H20）、町民の意向調査（H20）→市民がプロジェクトに関心を持ち、プロセスに参画することで「まち」への愛着を醸成する。そのようなPPPプロセスを構築。

紫波町公民連携基本計画（H21）このような基本計画は日本初。町民がチャレンジできるようなまちに。華やかな商業開発はしない、都市農村の暮らしを表現できる計画。

オガール・デザインガイドライン策定（H22）アーバンデザインの目標は美しいまちなみという社会的共通資本の形成とその維持。

オガールデザイン会議（H21）都市デザインの優れたまちづくりのため、各分野から有識者を集めて町長が委嘱。

オガール地区の土地利用と施設 役場庁舎、オガール広場、公園、保育園、オガールプラザ、フットボールセンター、エネルギーステーションといったものがこの地区に。

所見：H19年公民連携元年。町の今後にはPPPしか方法はない、という強い思いで取り組んだことが理解できた。オガールは公共経営公共サービスの在り方を変えた。地域資源を活用し、ユニークな手法でもって紫波町の中でお金が回る循環ができた。「消費する行政職員から、生産する行政職員になれ。稼ぐ仕組みをちゃんと考えろ！」という一言が心

に残っている。とはいえ、公示地価は上がっているが、経済波及効果はまだ出ているかの把握には至っていないとのことでこの把握が今後の課題。公民連携とは何か、行政から見たその具体的事例を学ぶことができた。函館市においても、西部地区再整備事業では、既存ストックの活用のところでは官民連携、PFI といった手法が必要になってくる、検討していることと思う。行政マンから見ても「岡崎さんという強いキーマンが重要」とのことであった。函館市における岡崎さんが現在いるのかどうか分からないが、これからの時代に合ったまちづくり、再整備になるよう紫波町の例で学んだことを議員活動の中で活かしたいと思う。

参考様式第1号

令和元年度

政務活動費支出伝票（一般）

会派名 主体的市民の会

伝票番号 2

代表者	経理責任者	支出年月日	区分		
		元年6月28日	調査研究費・研修費・広報広聴費・会議費 資料作成費 <u>資料購入費</u> ・事務費		
支払先		函館 蔦屋書店		支払金額	
				3,996円	
摘要（品名）		数量	単価	金額	
ふるさと創生—北海道土幌町のキセキ		1	1,404	1,404円	
不動産テック巨大産業の破壊者たち		1	2,592	2,592円	

領収書等は、領収書等貼付欄もしくは別紙に貼付のこと（重ならないよう留意）

【領収書等貼付欄】

領収書
主体的市民の会 若木明夫様

領収日 2019年06月28日
領収書No. 0026452410
(伝票 No. 0026452410)

¥3,996-(税込)

(内 税抜 ¥3,700- 消費税 ¥296-)
ふるさと創生—北海道土幌町のキセキ
但し、不動産テック巨大産業の破壊者たち
上記正に領収いたしました 抜者

函館 蔦屋書店 0138-47-2600
北海道函館市石川町85番1号